

# 現代社会を生き抜く主権者育成を目指したNIE実践

～学校総体で取り組むための環境づくりを通して～

都城市立小松原中学校  
教諭 宮本和典

## 1 はじめに～NIEの目的について～

学力向上は、我が国、そして、宮崎県教育界の喫緊の課題である。児童生徒の学力を向上させるために様々な手立てが講じられ、家庭、学校、地域社会、教育行政等による懸命な取組の結果、課題も残るものの、一定の成果が見られる。

そのような中、「なぜ学力向上が必要なのだろうか。」と考えた時、私たち教職員には、「テストのため」、「進学のため」、「就職のため」…、実に様々な答えが浮かんでくる。そのいずれもが現実的なものであり、当を得たものである。しかしながら、それらは、正鵠を射たものであるとは言い難いように思われる。

それでは、学力向上の目的は何か。それは、現代社会のこれからの予測できない変化に、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくためである。すなわち、個人の自己実現と社会の発展のための原動力、そのための学力向上でなければならない。これは、教育基本法における教育の目的「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」にも通ずるものである。

私たちがNIEに取り組む理由もまた然りである。NIEには、社会への興味関心の喚起や読解力向上、社会的認知の拡大等、学力向上に関わる様々な効果が期待できる。つまり、教育の目的と理念を一にした「自身の自己実現を図り、社会の発展に主体的に参画する生徒の育成」を目指すという目的であると言うことができる。

## 2 学校教育と主権者教育～よりよい主権者を育む学校教育～

学校では、教育基本法や学習指導要領の理念を具現化するために、社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、生涯にわたって生き抜く力や地域の課題解決を主体的に担うことができるよう、個々人の直面する課題や社会の多様な課題に対応した教育を実施してきた。

さらに、平成27年の公職選挙法等の改正により、選挙権を有する者の年齢が満18歳以上に引き下げられ、未来の日本の在り方を決める政治について、より多くの世代の声を反映することが可能となった。今後は、これまで以上に、国家・社会の形成者としての意識を醸成するとともに、課題を多面的・多角的に考え、自分なりの考えをつくっていく力や根拠をもって自分の考えを主張し、説得する力を育むことが重要となってくる。

以上のように、普遍的、そして、今日的な観点からも、今まで以上に生徒の社会参画のための知識・技能・態度を育む教育、すなわち「主権者教育」を推進することが現代の学校教育の命題であるといえる。

## 3 主権者教育とNIE～主権者教育を支えるNIE～

「主権者教育の推進に関する検討チーム中間報告(文科省：2016/03/31)」によると、主権者教育の目的を「単に政治の仕組みについて必要な知識を習得させるにとどまらず、主権者として社会の中で自立し、他者と連携・協働しながら、社会を生き抜く力や地域の課題解決を社会の構成員の一人として主体的に担うことができる力を身に付けさせること」としている。このことは、教育基本法で述べられている教育の目的と同義であり、学校においては、今まで以上に「平和で民主的な国家及び社会の形成者の育成」を強く意識した教育が求められているということに他ならない。

NIEによって高められる資質・能力は、語彙力、読解力、批判的思考力、社会的認知等、多岐にわたり、これらは、いずれも主権者教育の目的の達成に資するものである。しかし、本来これらは、各教科の授業をはじめ、生徒会活動や各行事など教育課程全体を通して育まれるものでもある。このことから、学校教育においては、主権者教育におけるNIEの位置づけを各教科や教育活動で育まれた知識や技能、態度などの諸能力を横断的に結び付け、強化する機能を有した教育活動とするのが望ましいと考える。

以上の論から、本年度の本校NIEの実践の主題と副題を上記のように設定することとした。

#### 4 実践の方向性

本校においては、NIEは、知識・技能・態度など各教育活動の成果を結び付け、強化するために、今年度は、学校総体の実践を推進するための環境整備に、次の視点で取り組むこととした。

##### (1) 「新聞に慣れ親しむ」ための環境整備

「生徒と新聞を結び付ける」ことで、「生徒と教師の結び付き」が促進され、その結果「生徒と社会が結びつく」ことが期待できるような、物的（ハード面）・人的・制度的（ソフト面）の整備に取り組む。

##### (2) 主権者として必要な力を育成するためのしくみと指導體制の構築

学校総体の実践を推進するために全ての教職員、生徒と共有できる明確な目標を設定することが重要である。そこで、これからの主権者として求められる力を育成するという目標を共有し、協働体制を構築するための工夫を行う。

##### (3) NIEに対する教職員の意識の共有と指導力向上のための実践

教職員のNIEについての理解や指導力を向上させることをねらいとして、理論研修や実践公開を積極的に行う。

#### 5 実践の実際

##### (1) 物的環境の整備と工夫～ハード面の整備～

###### ① 新聞ラックの設置

各学級に届く新聞紙をストックするために、新聞紙ラックを購入し、設置した。

###### ② 学年・全校掲示板の設置

生徒がその新聞記事をベースにして、オリジナルの記事（スピーチ原稿）を作成し、帰りの会に輪番で発表を行った。そして、記事の内容と取組状況を学年・全校で共有するねらいで、掲示板を設け、運用した。



【教室に設置されたラック】



【掲示板の記事を読む生徒】



【掲示板の記事を読む生徒】

###### 【教職員アンケートから】

- 生徒が掲示板を見ている様子をよく見かけた。また、各学級の取組や生徒の努力、教師の指導の様子が把握できることで刺激を受けた。
- ラックの記事（過日分）は、あまり見ていない様子。いいものを印刷して配布してもいいのかもしれない。

##### (2) 人的環境の整備と工夫～指導・支援・協働体制の構築～

###### ① チームNIEの発足

学校総体としてのNIEを推進するために、本年度は、生徒の参画を促す必要があると考え、NIEに興味関心がある生徒を募り、「チームNIE」を結成した。チームNIEのメンバーは、各学級のNIE推進のリーダー的役割を担うとともに、学校総体の取組を推進する上で、各学級における取組の歩調を合わせるのに活躍した。

###### ② 学担・副担の協働

帰りの会時の生徒スピーチに対する指導・支援を行う上で、学級担任と副担任でワークショップを行った。具体的には、副担任が原稿作成と発表についての指導を行い、学級担任は、帰りの会時に生徒のスピーチへの補足やフィードバックを行うという形にし、全教職員でNIEに関わる体制を構築した。



【チーム NIE の生徒】

【教職員アンケートから】

- チーム NIE の発足はよかった！生徒が責任をもって動いていた。
- 年度後半になると、生徒から建設的な提案がなされるようになってきた。生徒を参画させることの意義を感じた。
- チーム NIE の生徒が欠席等でいない時、活動が滞ってしまった。学級内に複数のメンバーがいてもいいかもしれない。

(3) 制度面の整備と工夫～生徒と新聞を結び付けるしくみの構築と運用～

① 社会科における「新聞を学ぶ」授業

年度初めに、各学年の社会科の時間で、「新聞について学ぶ」をテーマに授業を行った。新聞の読み方をはじめ、そのよさや活用する方法について学ぶ機会とした。

② 朝の一面記事の紹介

チーム NIE のメンバーによる朝の会での一面記事紹介では、記事の内容を紹介し、学級担任や副担任が補足説明を行った。生徒、教師共に世の中の出来事に興味をもち、その状況を把握するのに効果があったようである。

③ 帰りの会の一分間スピーチ

本校の NIE 実践のメインである。帰りの会で、生徒が記事をベースにオリジナルの記事を作成し、その発表（スピーチ）を行うものである。読む力をはじめ、書く力、考える力、そして、批判的思考力の育成を目指した。

輪番で全生徒が記事を作成し、発表を行うようにした。担当生徒は、発表日までに記事を作成する。その際にただ単に新聞を読むだけではなく、記事の内容を基に自分の考えを整理し、主張することができるよう、「記事の要約」、「記事選択の理由」、「主張したい事」等の視点で作成を行う（下図〔資料1〕参照）ようにした。また、学年の発達段階を考慮して、学年独自の視点も設けた。記事が完成したら、副担任の指導を受ける。その際、副担任は、その生徒の状況に応じて、高めたい力を定め、指導を行うようにした（下図〔資料2〕参照）。

資料1	オリジナル記事（スピーチ原稿）作成の際の視点
【各学年共通の項目】	○ 記事の要約 ○ 記事を選んだ理由
【1年生独自の項目】	○ 感想（感動したこと/驚いたこと/疑問に思ったこと）
【2・3年生共通の項目】	○ みんなに訴えたいこと
【3年生独自の項目】	○ 自由記述欄

資料2	生徒に身に付けさせたい力
高めたい力	状 態
計画する力	見通しを持って、準備ができているか。
書く力	正しい文字・文法で文章を書くことができているか。
読み取る力①	事実を正確に読み取っているか。
読み取る力②	正しく解釈しているか。（事実と考えを混同していないか。）
批判的思考力①	様々な視点から考えているか。（比較/分類/関連/一般化/具体/類推）
批判的思考力②	自分なりの提案をしているか。（推測/多面/批判/統合/反証）
伝える力	相手に伝わるように発表することができているか。



【新聞について学ぶ授業】



【朝の会での一面記事紹介】



【帰りの会でのスピーチの様子】

#### (4) 研修と実践公開の実施～教職員の意識の共有と指導力向上～

##### ① 夏の職員研修会

学校総体の実践を推進するためには、NIEの意義や目的、方法、留意点を全教職員で共有することが大切である。そこで、夏季休業中に職員研修を実施し、協働体制の構築を図った。新聞を活用することが目的になりがちな状況において、高めたい力を明確にし、全職員で方向性を共有することができた。

##### ② 県NIEセミナーでの授業公開

授業での新聞活用の実践例として、2月の県NIEセミナーにおいて社会科地理的分野の授業を実施し、校内外に実践を公開した。導入段階だけではなく、授業の展開やまとめの段階においても新聞を活用する実践を示すことができた。



【研修で語り合う教職員】



【授業公開の様子】



【授業公開の様子】

#### (5) その他～各教職員の新聞活用実践例～

- 授業で活用した。
  - ・家庭科で「家庭」について学ぶ際に活用した。
  - ・国語科で作成した生徒作品を新聞へ投稿した。
  - ・道徳で東日本大震災関連の記事を活用した。
  - ・保体科で体育理論を学ぶ際に記事を活用した。
  - ・国語科で社説を視写させて、内容に関する感想を書かせた。
  - ・英語科で記事の内容を英語で紹介したり、英問英答を行った。
  - ・社会科で新聞に登場した地名を地図帳で探す活動を毎時間取り入れた。
  - ・社会科で定期テストに記事の内容を時事問題として出題した。
  - ・数学科で確率の問題を学習する際に新聞を活用した。
- 通信に活用（帰りの会の説話資料として）した。
- 学年の週末課題で活用（社説をもとに文章で自分の考えをまとめる）した。
- 交通安全（改正道路交通法）指導の際に活用した。

#### 6 成果と課題～今年度の検証と今後の展望～

学校教育 / 主権者教育の成果を結び付け、強化する学校総体の実践を推進するために、今年度は、環境整備に重点を置き、実践を行ってきた。ここでは、生徒と新聞を結び付ける役割を担う教職員の意見・意識（教職員のアンケート）から、今年度の実践の検証と次年度の展望について考えていきたい。

##### 【教職員アンケートから】

- 子供たちが新聞に目を通す機会が増えた。
- 新聞に接する機会がたくさんありよかった。
- 少しずつ新聞が読めるようになってきた。
- 一面の紹介が朝の会であったのは良かった。
- 計画的にされていたのでよかったと思います。
- チーム NIE の生徒を中心に生徒一人一人が自覚してスピーチ原稿をしっかりと準備していました。

分析：生徒が新聞とふれあう機会が意図的・計画的に設定されことにより、学校総体の実践の基盤が醸成されつつある。また、教職員だけではなく、運営に生徒を参画させたのも奏功したと言える。次年度も今年度の取組をベースに継続していきたい。

- 新聞に親しむ生徒が増えた。
- 新聞に興味をもち、読む生徒が増えた。
- 新聞を朝開いて読んでいるところをよく目にしました。この機会がなければ新聞への興味・関心もなかったのではないかと思います。どの内容を…と聞くと、番組内容を先に…ということが多かったのですが、それでもスピーチの時は、必死に考えていました。
- 生徒たちが日々のニュースに関心をもつことになるよう仕組んであり、とても良いことだと感じました。スピーチでは、見逃しそうなニュースも取り上げられ、幅の広がりを感じました。

【教職員アンケートから】

- 新聞（世の中の出来事）に興味・関心をもつ生徒が増えました。休み時間に新聞を見る生徒や日記に記事の感想が書かれていたこともありました。
- 生徒や私も改めて社会情勢について学習することができた。
- 生徒が発表する内容や学担の先生のコメントから、時事問題等について学ぶことができた。

分析：物的環境（ハード面）の整備に加え、人的・制度的環境（ソフト面）の整備をしたことで、教職員・生徒ともに外発的動機づけから内発的動機づけへと昇華していることがわかる。また、社会情勢についての情報を得る貴重な機会となっていることがわかる。今後は、内発的動機づけを活かせるような実践を工夫していきたい。

- 生徒と社会面の色々な話をするきっかけになりました。
- 生徒との会話の中で新聞の内容にふれることができてきた。
- ニュースを話題にした際に、生徒の反応が返ってくるが多くなったように感じる。

分析：様々な実践から、生徒の社会的認知の拡がりを感じることができている。この成果は、学力向上や生徒会活動の充実に反映させることが期待できる。今後は、そのための手立てのさらなる工夫と充実を推進していきたい。

- （スピーチ原稿作成の際に）「夢」等のテーマを設定したことで、課題意識をもって記事を探ることができたのではないかと思います。
- テーマを月ごとに決めて、記事を選ばせたのがよかった。（テーマが月の行事等に合っていたのもよかったです。）

分析：実践が軌道に乗ってからも、実践自体が目的にならないように工夫をすることが大切であることがわかる。今年度は、スピーチ原稿作成の際に「夢」や「挑戦」など、時期に合ったテーマを設定したことで目的意識をもって活動することができた。

- 人前で発言する機会ができよかった。
- 他の人のスピーチを見ながら、自分のスピーチについて考えるようになっていた。
- 面接指導（社会への関心）や話す練習など大いに意義がありました。
- 新聞を読み、スピーチ原稿に書くことによって、要点のまとめ方がとてもうまくいった。

分析：自分の考えを整理し、表現する貴重な機会になったようである。また、級友の発表がモデルとなり、自己の社会的認知や表現の在り方を振り返ることができているようである。よりよい発表在り方を全校で共有する必要がある。

- 内容の読み取りや文章表現が困難な生徒への指導の在り方を検討する必要がある。
- 記事の中の読めない漢字や意味の難しい語句、原稿を書くときの漢字等、辞書を引く習慣をつけさせる。
- 専門用語、難読漢字についての指導は、その場その場で行う必要がある。
- 中学生には、一面記事を理解する基礎的な知識があまりにも少ない事を再認識させられた。
- 取り上げられたニュースについて、生徒たちの理解を手助けするよう、学級(副)担任がサポートする必要がある。その際に教職員の力量も問われるので、職員一人一人日々のニュースに目を向けていかなければならない。
- スピーチ原稿の内容が学級によって差があったので、さらに統一感があるとよい。
- スピーチ担当以外の日にどのくらいの生徒が新聞を開いていたかがつかめなかった。

分析：NIE の実践から見えてきた生徒の読み書きに関する困り感に対して、早急に手立てを講じる必要がある。また、多くの生徒が新聞を自力で読むことが困難な実態は、改めてNIEの重要性とそれに関わる教職員の意識と力量の高さが問われていることを示唆している。さらに、長期的なビジョンとして、小学校との連携を通して、小学校段階から「新聞を読む力」を系統的・計画的に高めていく必要性も強く感じた。

今年度のハード・ソフト両面の整備を通して、様々な成果が得られた。中でも、生徒の成長はもちろんのこと、「18歳選挙権に向けての準備としては、大変素晴らしい活動だと思いました。」という意見に代表されるように、教職員のNIEへの理解が深まるとともに、その教育効果を実感することができたことが大きな成果であると思う。来年度の実践では、今年度の成果と課題を踏まえ、学校総体の実践を継続、発展させ、生徒の変容を中心に検証を行っていきたい。